

2025 年度
福岡県糸島市
「女性のはたらき方
研究プロジェクト」
活動報告書



相模女子大学・相模女子大学短期大学部
夢をかなえるセンター連携教育推進課
「福岡県糸島市女性のはたらき方研究プロジェクト」発行

目次

1. 本プロジェクトについて

2. 活動の流れ

3. 活動まとめ

① はたらき方に関するインタビュー

・いとゆたか農園 寺田佳奈さん

・いとしま応援プラザ 桑野陽子さん

・まんまる食堂 森裕美さん

② プロジェクト OG との交流会

③ オンラインインタビュー

・NPO 法人マイレ 深川美香さん

・一般社団法人ママトコロボ 尾崎恭子さん

・糸島ファミリーサポートセンター 立谷絵美さん

④ 糸島市の魅力発信

4. 活動を終えての感想

5. お世話になった方の紹介

1. 本プロジェクトについて

本プロジェクトは、近年、移住者が増加し、様々なはたらき方で自分らしい人生を歩まれている魅力的な方が多い福岡県糸島市をフィールドに「多様な女性の働き方」を研究しています。

「多様な女性の働き方」を研究することで、今後の就職先だけでなく、その先の人生をどのように生きていきたいかなど自身の未来について考えるきっかけになるヒントを得ることができるプロジェクトです。実際に2泊3日で糸島市に訪問し、研究を深めていきます。最終日には市長表敬訪問を行い、約3日間で学んだこと、糸島市で知れた沢山の魅力等、メンバー全員が想いを実際に伝えることができます。

活動内容としては主に下記の3点です。

① インタビュー調査

糸島市在住の方を対象に、働き方や人生観などのインタビューを行い、将来を考える上での参考にさせていただきます。また、普段関わる機会のない方々と実際に交流を行うことで、社会で必要とされるコミュニケーション能力を身につけることができます。さらに、インタビュー依頼からその後のメールでのやり取りまで経験ができるため、文章力も身につけることができます。

② SNSでの情報発信

糸島プロジェクトでは、インスタグラムを活用し、糸島市の魅力について発信を行っております。ターゲットとしては、大学生や20代～30代の女性で「糸島市へ旅行したい人」を対象に情報発信を行っております。

③ 糸島プロジェクトプラットフォームの構築と活用

これまでに糸島プロジェクトに参加した上級生や卒業生と交流することができるプラットフォームを構築します。また、交流を通じて人脈構築だけでなく進路相談の機会創出にもつながっており、実際に糸島市に訪れた際のお話やおすすめスポットなども知ることのできる機会となっております。

2. 活動の流れ

日程	活動
2025年6月17日	第一回ミーティング 顔合わせ
2025年6月24日	第二回ミーティング
2025年9月11日	OG交流会
2025年11月5日	第一回オンラインインタビュー
2025年11月14日	第二回オンラインインタビュー
2025年12月19日	第一回現地訪問に向けたミーティング
2026年1月14日	現地訪問のための事前勉強会
2026年1月23日	第二回現地訪問に向けたミーティング
2026年2月4日~6日	糸島市現地訪問

3. 活動のまとめ（※インタビューの詳細は 5.お世話になった方に記載しています。）

①はたらき方に関するインタビュー

メンバー：石井菜楠 / 大河原三琴 / 田中莉央

■いとゆたか農園 寺田佳奈さん

担当：石井菜楠



1人目は、いとゆたか農園の寺田佳奈さん（以下、寺田さん）です。結婚・出産を機に、地元に戻り、自身のやりたいことを見つけ、地元で根差した働き方、生き方を選択された姿は、学生の今後のキャリアを考えるうえで参考になると考え、インタビューをさせていただきました。

寺田さんは、主にアスパラガス・いちご・きゅうりなどを育てています。東京での生活を経て、地元である糸島市に戻り農業を始められました。東京にいた頃と比べて、糸島市では時間の流れや人との関わり方が大きく変わったと話されていました。都会での生活とは異なり、人との距離が近く、関係性が深いことが印象的だったそうです。もともとは引っ込み思案な性格だったそうですが、うつ病を経験したことをきっかけに、「人生一度きりだから、やりたいことをやってみよう」と考えるようになり、農業という道を選ばれました。その言葉には、ご自身の経験を通してたどり着いた強い覚悟が感じられました。

インタビューは短い時間でしたが、スケッチブックを使っていちごの育て方や農業の現状についてイラストを交えながら丁寧に説明してくださり、とても分かりやすく、明るくハキハキと答えてくださいました。ご夫婦で農園を営まれており、お二人の温かい雰囲気も印象に残っています。

農業体験では、いちごの枯れている葉を取る作業を行い、いちご狩りも体験しました。作業は想像以上に大変でしたが、普段できない貴重な経験であり、最終的にはとても楽しく感じました。日々の丁寧な作業が、美味しいいちごを育てていることを実感しました。

現在の日本の農業は従事者の多くが 65 歳以上であり、「国民 100 人を農家 2 人で支

えている」という現状も教えていただきました。農業を始めることは大変だったそうですが、それでも農業に興味を持つ人が増えてほしいと話されていました。今回のインタビューと体験を通して、農業は単に作物を育てる仕事ではなく、生き方そのものと深く結びついている仕事なのだと感じました。

■いとしま応援プラザ 桑野陽子さん

担当：田中莉央

2人目は、いとしま応援プラザの桑野陽子さん（以下、桑野さん）です。様々な事業を展開している桑野さんに、大変だと感じたことや今後の目標についてお伺いしたいと思い、インタビューさせていただきました。

桑野さんは、糸島市の子育て支援活動で得た地域のネットワークを活用して、2009年に「NPO法人いとひとねっと」（以下、NPO法人）を設立された方です。2011年からはいとしま応援プラザの指定管理者として施設を運営。現在はNPO法人を閉鎖し、スタッフとしていとしま応援プラザで勤務し、芸術家や起業家の支援、訪問客への接客や糸島クラフトをはじめとした糸島の魅力発信に尽力されています。

まず、いとしま応援プラザとは、起業家や芸術家の活動支援をおこなう施設で、施設内では糸島市で活動されている作家の方々の作品が展示・販売されています。私達は実際に施設内を見学したり、その施設で販売されている商品を購入したりしました。展示品を見ていると、糸島市の作家の方々の技術力の高さやその作品に込められた情熱が伝わってきて、とても魅力に溢れていると感じました。

インタビューでは、桑野さん自身に向けられる批判の声や様々な方達との関係を築くことの大変さと、同じ概念に縛られないことの大切さが伝わってきました。桑野さん自身は、これらの経験に対し、批判の声は上手く汲み取り、場数を踏むことで、対処し得る感覚ができるのだと仰っていました。また、若い人は失敗を重ねることによって成長すると仰っていたのが印象的でした。私は今まで「失敗することは悪いこと」と否定的に捉えていました。しかし、桑野さんのお話を聞いて「失敗は成長している証」だと前向きに捉えるようになりました。

今回、桑野さんのお話から、これからの私達の人生の教訓になるようなことを沢山学びました。インタビューをしている途中から、私は桑野さんのことを「人生の先輩」として見るようになりました。また、桑野さんのような大人になりたいという憧れも持つようになりました。先程も述べたように、これからは失敗を前向きに捉えるようにすると同時に、その失敗を恐れずに様々なことに挑戦していきたいと思いません。

■まんまる食堂 森裕美さん

担当：大河原三琴

3人目は、まんまる食堂の森裕美さん（以下、森さん）です。お子様を連れながら移動販売を続け、実店舗を構える夢を叶えられたその行動力に深く感銘を受け、どのような想いで決断を積み重ねてこられたのか、またその歩みに興味を惹かれたため、インタビューさせていただきました。

4人の母である森さんは、13年前にカレーの移動販売を始められました。しかし、コロナ禍で休校となり、給食以外食べられない子どもたちのために“ママが作って家族全員笑顔がまんまる”という理念のもと、「まんまる食堂」という名前の子ども食堂を立ち上げられたそうです。

小学生から大学生まで使える未来チケットを設け、経済的な理由に関わらず食事ができる環境を作られています。子どもを信じるということをとっても大切にされており、カレーを食べに来る子ども達の相談に乗るなど、沢山の感情と共に過ごしてこられたそうです。そして、100人を超える子どもたちと関わり、地域から愛されているお店です。森さん自身はカレーが苦手で、本当は焼き鳥が希望だったそうです。しかし、子ども達への煙の影響や周囲からの意見により、カレーに決まり、現在は毎日食べに来る子どもたちのために、カレー以外のメニューも考案しているとおっしゃっていました。

これからの願いは、子どもたちが家で十分に食事をとることができ、子ども食堂が必要の無い世の中になることだそうです。今回のインタビューでは、子どもたちを真に大切に思っていることが強く印象に残りました。森さんのお子さんは不登校だったそうです。私も不登校の時期が長く、当時にまんまる食堂のような場所があれば行きたかったと強く感じました。私も大人の年齢になった今、信じるという姿勢をより強く持って生きていきたいです。この度は貴重なインタビューをありがとうございました。

②プロジェクト OG との交流会

メンバー：石井青葉 / 山形漣

本年度も、昨年度に引き続きプロジェクト OG の方々との交流会を実施しました。今回の交流会では、グループを3つに分け、プロジェクト OG の方とだけでなく、継続メンバーと新規メンバーが垣根を越えて対話できる機会を設けました。プロジェクト活動を行う上で意識することや、糸島市の魅力などについて共有することで、今後の活動に役立つ有意義な時間となりました。交流会では1名のプロジェクト OG の方にお越しいただき、当時のプロジェクト活動の様子や、就職活動、社会人生活などの

貴重なお話を伺うことができました。

【協力して下さったプロジェクト OG】

区分	卒業年度	学科	氏名
卒業生	2018 年度	栄養科学部 管理栄養学科	菊池 香菜子さん

本年度も昨年度に引き続き、2025 年 9 月 11 日にプロジェクト参加経験のある OG の方と対面形式で交流会を行いました。今回の交流会は現プロジェクトメンバーが企画・協力しながら進行を行いました。糸島市の魅力や当時のプロジェクト活動の様子を中心に、就職活動や社会人生活についてなど様々なお話を伺うことができました。用意した飲み物や軽食をふるまいながら、現地訪問前に貴重な意見交換をすることができ、とても有意義な時間となりました。

【交流会参加メンバー感想】

昨年度に引き続き、このプロジェクトに参加し、プロジェクト OG との交流会を行いました。継続メンバーとして、新規メンバーに糸島市の魅力やこれまでの活動について伝えることができました。自分の経験を振り返りながら伝える中で、改めて糸島市の良さや活動の意味を感じることができました。

また、OG の方との交流では、来年の就職活動に向けて具体的なお話を伺うことができ、とても勉強になりました。実際に経験された方の話を聞くことで、自分自身の将来についてより現実的に考えるきっかけになりました。今回の交流で得た学びを、これからの学生生活やキャリア選択に活かしていきたいです。

石井青葉

私は昨年度に引き続き、交流会チームとして活動を行いました。OG の方から実際に経験したことや感じたことを聞くことで、今後のプロジェクト活動の参考にすることができました。また、プロジェクト活動のお話だけでなく、就職活動や社会人生活についてのお話も伺うことができたため、とても有意義な時間になったと感じています。今年度の交流会を通して、来年度はプロジェクトの先輩として後輩にお話しできたらと考えています。

山形漣

③オンラインインタビュー

メンバー：金子結 / 木部結衣

本年度では、11月に糸島市ではたらく3名の方にオンライン会議ツール Microsoft Teams を使用してのオンラインインタビューをさせていただきました。糸島市に根付いた事業や活動をなさっている方々を中心にインタビューさせていただき、はたらく上での大変なことややりがいなどをお聞きしたことで、皆様の糸島市に対する強い想いが伝わってきました。

1人目はNPO法人マイレの理事長をされている深川美香さん（以下、深川さん）にインタビューさせていただきました。深川さんは看護大学の卒業後に内科病棟・緩和病棟に勤務しておりましたが、ホームホスピスで働きたい気持ちが強く、周囲から設立を勧められたこともあり、その約10年後に「NPO法人マイレ」（以下、マイレ）を設立され、現在、理事長としてホームホスピスや訪問看護などの事業を運営されています。そこで、インタビューではマイレを設立しようと思った経緯やマイレの理念、今後の目標などについてお伺いしました。

深川さんへのインタビューでは、マイレの理念をお聞きして、深川さんが利用者の方の意志や望んでいることを尊重し第一に思ってマイレの運営をされていることが伝わり、人に寄り添う温かさを感じました。そして、マイレについての事業やお話を聞く中で、病院の看護とは違うホームホスピスの魅力も知ることができました。ですが、深川さんはマイレやホームホスピスがどのようなことをするのか広く知られていないとも仰っていたので、地域や人と人との温かさを感じられるマイレやホームホスピスのことをより多くの方に認知していただきたいと思いました。

また、インタビューの中で深川さんが仰っていた、「支え合い、お互い認め合って生きていく」という言葉が特に印象に残りました。自分自身の普段の生活や対人関係においても相互に認め支え合い尊重し合うことが、人と人が関わる上で重要で大切なことなのだと改めて実感することができました。

2人目は「一般社団法人ママトコラボ」（以下、ママトコラボ）の代表理事とフリーのライターのお仕事をされている尾崎恭子さん（以下、尾崎さん）にインタビューさせていただきました。

尾崎さんは22年前に福岡市から糸島市へ移住されました。移住後は、女性が子育てをしながらでも、キャリアを続けることができる環境や仕組みづくりに尽力されており、テレワークセンターの運営や様々な支援事業を実施されています。そこで、インタビューでは事業の目的や子育てと仕事を両立できる仕組みなどをお伺いしました。

尾崎さんへのインタビューでは、糸島市に愛着と誇りを持って暮らす人を増やしたいという思いと糸島市への愛情が深く伝わりました。ママトコラボでは事業の一環と

して、お母さんが子育てと並行して行える働き方の紹介やお母さんがライターとして活躍できるよう育成も行っていると聞きし、糸島市に根差した仕事をしながら子育てのことも考えることのできる事業に魅力を感じました。

また、尾崎さんにライターの仕事のやりがいや楽しさをお聞きした際に「自分の人生では触れられない人の生き方や価値観に触れることができる」と仰っていて、自分とは違った様々な価値観や気づきを得られるということは、糸島市の方々へのインタビューやプロジェクト OG の方々との交流会を始めとした私たちの活動にも共通している部分があり、とても共感しました。そして、これからの活動においてもより一層、人の生き方や価値観に触れてみたいと思いました。

3人目は糸島市ファミリーサポートセンターでアドバイザーをされている立谷絵美さん（以下、立谷さん）にインタビューさせていただきました。

立谷さんは福岡市内で小学校教諭を7年間勤めていました。大学生の頃から女性のキャリア選択について関心があったこともあり、小学校教諭を退職したのち、現在までその経験を活かして、子どもを預かることで子育てをサポートする糸島市ファミリーサポートセンターのアドバイザーを務めています。そこで、アドバイザーとして大切にしていることややりがいなどをお伺いしました。

立谷さんへのインタビューでは、ファミリーサポートセンターのアドバイザーとして人を大切にし、尊重するという思いが伝わってきました。ファミリーサポートセンターの存在を知ってもらった上で支援を受けるか受けないかを選択できるようにしたいと仰っていたことが印象的で、立谷さんが人を大切にしたいということが強く感じられました。

ファミリーサポートセンターでは、サポートをお願いする「おねがい会員」と、子育てのサポートをする「サポート会員」、の二種類の会員制度があります。その中で「サポート会員」として登録されている方々は、地域の方や子育てに関わりたい方や子育てを終えた世代の方が多いそうです。立谷さんのお話をお聞きして、ファミリーサポートセンターは人との温かさや様々な世代を繋げる役割となっていることを知り、地域の人との繋がりを活かした事業の重要性を学ぶことができ、この人との繋がりが温かさをより多くの人に知ってもらいたいと思いました。

インタビューをさせていただいた3名の方々は糸島市がより過ごしやすくなるように支援する事業に携わっており、皆様が糸島市だからこその人との繋がりを大切に思っていることが深く伝わってきました。また、人との繋がり、人を大切にすること、人を尊重することの大切さを学ぶことのできた大変貴重な経験となり、どんな時でもこれらを意識して生活していきたいと考えるきっかけになりました。

お忙しい中、本インタビューを快く引き受けてくださった深川様、尾崎様、立谷様の3名の方々のご協力に心より感謝申し上げます。

④糸島市の魅力発信

メンバー：鈴木真優 / 横山翠子

2024年度のプロジェクトメンバーからInstagramのアカウントを引き継ぎ、2025年11月25日から再始動いたしました。投稿内容としては、プロジェクト所属メンバーの紹介や9月に行われたOG交流会、11月に行われたオンラインインタビューについての投稿を行いました。

●実際の投稿



上記の写真は、実際に投稿を作成する上で、二つの点を意識しています。

1つ目は情報の第一印象を大切にしたい点です。表紙画像の文字情報を最小限にすることで、たくさんの方の目を惹きつけるような投稿文になるように意識しました。また、絵文字を入れることで継続して関心を持っていただくようにしました。

2つ目は正しい情報を発信することを心がけた点です。インタビューの方々と確認作業を怠らず、責任を持って取り組みました。

●課題と改善点

今年度の魅力発信活動を振り返り、投稿頻度が少ないという課題が見えました。理由の一つに挙げられるのは、一つの投稿に対してかなり時間がかかってしまうことがあった点です。この課題を改善するため、今後は一つ一つの投稿に対して仕事の分担やテンプレートの作成をしていきたいと考えています。また、投稿数が少ないことに

関しては、投稿するトピックをもう少し増やし、より多くの方に見ていただける機会を作っていきたいです。

●感想と今後について

情報発信の活動を経て、糸島市の魅力を知り、SNS 投稿の作成や文章における言葉の選び方について学ぶことができました。Instagram を見てくださる方々に向けて正確な情報を基により糸島市の魅力が伝わるように発信することは難しかったです。しかし、完成したものを発信したときに「いいね」などの反応がもらえたことがやりがいに繋がりました。

今後は、糸島市訪問や訪問の際に行ったインタビューの内容に関する投稿を Instagram にて行う予定です。

4. 年間の活動を終えた感想

人間社会学部 社会マネジメント学科 3年 呂畑穂奈美

担当：リーダー / 交流会チーム

私は1年生から本プロジェクトに参加し、今年度はリーダーを務めさせていただきました。私はどちらかといえば、下から支えるタイプだったため、皆を引っ張っていかなければならないリーダーという役割は難しく、想像していたよりも様々な立ち回りをしなければならないため、毎度反省点が沢山あり、苦戦の連続でした。ですが、活動を重ねるごとにメンバーたちの成長が少しずつ見え、少しでも皆の力になれていたことが実感できたため、母のような目線で全体を俯瞰する、視野を広く持てるようになり、自分自身の成長にも繋がったと感じています。

そして、私が活動の中で一番印象に残っているのは、現地訪問です。毎年様々な方にインタビューをさせていただいていますが、3年間経験して感じたことは、糸島市で活躍されている方々は、皆様新たな挑戦をする際に「人生は一度きりだから」という言葉を仰っていました。当たり前のことではありますが、その一步を踏み出すにはとても勇気のいることであり、簡単なことではありません。私は今年度、就職活動を経験し、自身のキャリアについて考える時間が多かったため、一步踏み出す勇気をより身に染みて感じることができました。

改めて、3年間本プロジェクトに参加させていただき、自分のキャリアを考える材料やプロジェクトに参加していたからこそできた経験は、私のかげがえのない財産になりました。3年間、本プロジェクトの活動にご尽力いただいた糸島市役所の皆様、相模女子大学連携教育推進課職員の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも本プロジェクトの活動にお力添えをいただけますよう、よろしく願いいたします。

人間社会学部 社会マネジメント学科 3年 須貝紅琉美

担当：副リーダー / 情報発信チーム

私は1年生から本プロジェクトに参加し、今回は副リーダーを務めさせていただきました。プロジェクトの活動で最も重要だと感じているのが、活動内での様々な経験から自身の強みや得意を知ることです。そのため、今年度も昨年度と同様に役割分担を行い、スケジュール管理や進捗の確認、作業に行き詰まった際のアドバイスなど、メンバーのサポートに力を入れて取り組みました。この一年で、メンバーが少しずつ自信を持って活動するようになり、中にはチームを率先して引っ張る姿を見られるなど、大きな成長を実感することができました。

今年度は休学中での活動参加となり、メンバーと直接会える機会は多くありませんでしたが、作業に関する質問や困ったときの相談を受ける中で、頑張りたいという気持ちが伝わってきました。そして実際に成長していく姿を見ることができ、本当に嬉しく思います。

本プロジェクトでは学ぶこと、経験できることが非常に多く、今後の人生における選択肢を広げる有意義な活動であると感じています。そのため、今後も現在の活動を大切にしながら、さらに活動の幅を広げ、様々なことにチャレンジしてってもらえたら嬉しいです。

3年間、本プロジェクトの活動にご尽力賜りました糸島市役所の皆様、相模女子大学連携教育推進課職員の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも本プロジェクトの活動にお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学芸学部 メディア情報学科 4年 石井菜楠

担当：オンラインインタビューチーム / インタビューチーム / 情報発信チーム

福岡県糸島市の女性のはたらき方プロジェクトに2年間参加しました。1年目は活動に参加することで多様な生き方や価値観に触れ、2年目はSNS投稿やオンラインインタビューを担当し、さらに2月4日から6日に現地を訪問して3名の女性の方に直接お話を伺いました。

インタビューで特に印象に残ったのは「人生一度きり」という言葉です。1年目にも耳にしていましたが、改めて現地でその言葉を聞いたとき、糸島の方々は本当に自分の人生を自分で考え、選び取っているのだと強く感じました。糸島の女性たちに共通していたのは、行動力と優しさ、そして自分の頭で考えて決断している姿勢です。周囲に流されるのではなく、自分の軸を持ちながらも、人とのつながりを大切にしている姿がとても印象的でした。正直、卒業研究と並行しての活動は大変でしたが、実際に足を運び、直接言葉を聞いたことで、自分自身の働き方や将来について改めて考えるきっかけになりました。この2年間を通して、働き方とは与えられるものではなく、自分で考えて選ぶことができるものなのだと学びました。

人間社会学部 人間心理学科 3年 金子結

担当：オンラインインタビューチーム / インタビューチーム

私は昨年度からプロジェクトに参加し、今年度で2度目の参加となりました。昨年度は就職活動や自身の将来に対しての漠然とした恐怖や焦燥感を払拭したいという思いでプロジェクトに参加しました。1年目は就職活動や将来のことだけでなく、プロジェクトの活動に関しても分からないことや至らない点ばかりでしたが、この2年間

の活動を通して以前の自分より成長できたと実感することができました。

昨年度は自主的な行動がうまくできず、そのことからプロジェクトに貢献できている実感がなく自信をなくしていました。昨年度の自分より成長するために、今年度の活動は自主的に行動することと、メンバーや糸島市の方々とより積極的にコミュニケーションを取ることを目標に掲げて活動するようにしていました。はじめは昨年度からどのように行動を変えるか、どのように自主的に行動するかに悩みました。ですが、オンラインインタビューや現地訪問に向けての準備や活動において、担当の職員の方やプロジェクトメンバーと連絡や相談をこまめに自分から行うことで自主的な行動を実現することができました。自分の行動によってプロジェクトの活動の進捗が進んだこともあったので、自分の自信にも繋がりました。

また、積極的にコミュニケーションを行うという目標も達成することができたと感じています。昨年度から継続して参加しているメンバーだけでなく、今年度から参加したメンバーとも主に現地訪問を通じてコミュニケーションを取ることができました。糸島市の方々とコミュニケーションでは、市役所の方々とインタビューをした方々などだけではなく、訪問先のお店や観光地にいた現地の方々が話しかけてくださり、貴重なお話をお聞きすることができました。皆さんが優しく気さくに話しかけてくださったので、糸島市の方々の暖かさを感じるすることができました。

来年度は4年生となり就職活動や卒業論文などが本格化しますが、来年度も今年度より一層自主的な行動と積極的なコミュニケーションを取ることを忘れず、さらに糸島市の魅力を知り、発信していきたいと思います。

人間社会学部 人間心理学科 3年 木部結衣
担当：オンラインインタビューチーム

私は、昨年度から本プロジェクトに参加しており、今年度も引き続きインタビューチームを担当しました。

今年度の11月にはオンラインインタビューを実施し、私はリーダーを務めました。昨年度には行っていない活動だったため、不安が多くあり、苦悩する毎日でした。その中でも、自分の成長を大きく感じられた点が2点ありました。

1点目は、目上の方とのメールのやり取りができるようになったことです。インタビューの依頼や日程調整の連絡を行う中で、失礼のない表現や分かりやすい文章になるように心がけました。初めの頃は不安だったため、その都度プロジェクトメンバーに確認してもらってから、先方に送るようにしていました。そのため、相談に乗ってくれたメンバーのおかげで自身の成長に繋がったと感じています。

2点目は、スケジュール管理ができるようになったことです。メンバーやインタビューの方それぞれの予定を調整しながら準備を進める必要があったため、いかに計画的に進められるかが重要でした。インタビューの方の都合で急遽日程を変更する

といった事態も起きましたが、迅速に対応ができた点はよかったと感じています。

今年度は2月の現地訪問には参加できませんでしたが、オンラインインタビューを通して、自身の成長を感じることができました。また、オンラインインタビューを無事行うことはできたのは、快くインタビューを引き受けてくださった深川様、柴田様、立谷様、糸島市役所職員の梶山様、連携教育推進課の太田様、たくさん相談に乗ってくれたメンバー、皆様の協力があったからこそだと感じています。誠にありがとうございました。今年度新たに得られた経験や知識を忘れずに、これからの人生に活かしていきたいです。

人間社会学部 人間心理学科 2年 石井青葉
担当：副リーダー / 交流会チーム

私は今回プロジェクトに参加するのが2回目となりました。去年は先輩方について行くのに必死でしたが、今回は少し余裕も生まれ、自分から行動することができました。交流会ではOGの先輩からお話を伺い、来年から本格的に就職活動が始まる私にとって将来を考える機会となりました。また、糸島市現地訪問でインタビューにご協力いただいた方々から、「人生は一度きりである」という言葉を伺い、挑戦したいことがある際には一歩踏み出すことの大切さを学びました

様々な活動を通して得られた学びや気づきを、今後の自身の生き方やキャリア形成に活かしていきたいと考えております。

人間社会学部 人間心理学科 2年 山形漣
担当：交流会チーム

私は昨年度から本プロジェクトに参加し、今年度も交流会チームとして主に活動させていただきました。昨年度とは違い、後輩をサポートしつつ主体的に取り組まなければならない立場となり、不安や焦りがありました。ですが、先輩方からアドバイスをいただき、コミュニケーションを積極的にとることを意識することで、円滑に活動を進めることができました。

私は今年度も現地訪問へ行くことはできなかったのですが、交流会やオンラインインタビューを通して学べることは多々ありました。糸島市で働く人たちを知ること、自分の中での見聞を広めることができたと感じています。この経験を活かし、来年度はさらにこのプロジェクトを引っ張っていく立場になれるよう尽力してまいります。

人間社会学部 人間心理学科 1年 大河原三琴
担当：インタビューチーム

私は今回初めて糸島プロジェクトに参加させて頂いて、特に強く印象に残っているのは、現地訪問です。糸島市で働いていらっしゃる方々のもとへ実際に足を運んだことで、その場でしか得られない学びを得ることができました。作家の作品を販売されている桑野様や、子ども食堂を運営されている森様など、普段の生活ではあまり関わる機会のないご職業の方々のお話は大変新鮮で、貴重な学びとなりました。また、仕事に対する姿勢だけでなく、人生の在り方についてもお話を伺い、大変印象に残っています。

これらのお話は、自分自身の価値観を見つめ直すきっかけとなり、まさに目から鱗が落ちる思いでした。さらに、名刺を作成するという初めての経験や、糸島市長を訪問させていただくという貴重な機会もあり、多くの刺激を受けました。

今回のプロジェクトで得た学びや経験を、今後社会に出て働く中で困難に直面した際の支えとし、自身の人生の糧として活かしていきたいと考えています。

人間社会学部 社会マネジメント学科 1年 鈴木真優
担当：情報発信チーム

私は女性の働き方や将来について不安があったため自分のキャリアについて考えたいと思い、このプロジェクトに参加しました。

情報発信チームとして糸島市の魅力をどう伝えるか悩みましたが、思いきって先輩方や市役所の梶山様と相談させていただきました。そのおかげで糸島市の綺麗な自然や観光名所の画像を取り入れるなど、工夫して行うことができました。相談することは悪いことではなく、より良いものを作るうえで大切だと感じました。

また、現地訪問では「人生は一度きり」や「何かを始める時は反対する人が二割いる」など挑戦することに前向きになれる言葉を知ることができました。挑戦することが怖いと感じた時や誰かに反対された時に思い出して頑張りたいです。

本プロジェクトでは女性の働き方だけではなく、インタビューの方の生き方についても学ぶことができました。教えていただいた大切なことを自分の将来に活かしていきたいです。

学芸学部 英語文化コミュニケーション学科 1年 田中莉央
担当：交流会チーム

私は糸島市の魅力や女性の働き方について興味があったため、このプロジェクトに参加させて頂きました。また、今年度のプロジェクト活動が初参加となりました。

先輩方や同期含めプロジェクトメンバー全員が初対面であったため、最初は打ち解けられるのかとても不安でした。しかし交流会や現地訪問を通して距離が縮まったのと同時に、不安も解消されました。特に先輩方の助けや同期の支えがとても心強かったです。

実際に訪問して見て、糸島市は自然豊かで魅力的な場所が沢山あることが分かりました。海や山がある街はなかなかないため、糸島市の景色や食べ物がとても印象に残っています。また、糸島市の人々の温かさも心に残っています。観光地を訪れた私達を見かけて「どこから来たのですか？」と話しかけ下さり、プロジェクト内容を説明すると「頑張ってるね」と笑顔で返答されたのが特に印象深かったです。

今回のプロジェクト活動を通して糸島市の魅力のみならず、女性の働き方や生き方について深く学ぶことができました。糸島市で働く方達のお話を聞いて、私自身の考え方が大きく変わったと実感してします。それと同時に、プロジェクトに参加した甲斐があったと感じています。

人間社会学部 社会マネジメント学科 1年 横山翠子
担当：情報発信チーム

私は大学生になって様々なことに挑戦していきたいという思いのもと、本プロジェクトに参加しました。

私は本プロジェクトで、情報発信チームとして活動を行いました。しかし、プロジェクトを通じて SNS で情報発信をすることが初めてであったため、右も左も分からない状態でした。それから先輩方に何度も修正案をいただき、分からないなりに調査を行い、最終的に OG 交流会の様子を最大限に発信することができたと思います。

本プロジェクトの活動を通して、将来自分がどのように働きたいか考えるきっかけとなりました。本プロジェクトで得た経験を自身の就職活動において活かしていきたいと考えています。

5. お世話になった方々のご紹介

糸島市ファミリー・サポート・センター 立谷絵美様

小学校教諭を7年間務められたのち、現在は糸島市ファミリー・サポート・センターにおいてアドバイザーとして、会員同士がスムーズに援助活動を行えるよう支援されています。

<https://www.itofamisapo.com/>

NPO 法人マイレ理事長 深川美香様

「生まれることと死ぬことは自然で尊いものである」ということを知ってほしいとの思いから、マイレを設立されました。現在は、訪問看護事業やホームホスピスの運営に取り組んでいらっしゃいます。ホームホスピスは、もともと宮崎県で始まった取り組みです。また、支援にあたっては、本当に望んでいることは何か、ご本人がどのように生きていきたいと考えているのかを尊重することを大切にされているそうです。

<https://www.city.itoshima.lg.jp/s026/010/b070/itoshimasigoto/itoshimasigotokiji12/20231114130119.html>

一般社団法人ママトコラボ代表理事長 尾崎恭子様

22年前に福岡市から糸島市に移住され、現在はフリーライターとして活動されています。出産を機に離婚を経験された後、仕事を通して地域社会や人とつながり、地域への愛着を深める機会を創出する「ママトコラボ」の理事を務めていらっしゃいます。ママトコラボは、子育てをしながら社会貢献をしたいという思いから、14～15年前に任意団体として設立されました。

<https://mamatocolab.com/about/>

まんまる食堂 森裕美様

前原商店街にある「まんまる食堂」の店主を務めておられます。「子どもを連れて働ける仕事がしたい」との思いから、2012年にカレーの移動販売を開始されました。2年半後の2015年には実店舗をオープンし、地産地消を大切にしながら糸島市の食材を使用したメニューを提供されています。コロナ禍で学校給食がなくなり、困っている家庭があることを知ったことをきっかけに、2020年からは「みらいチケット」の仕組みを活用した子ども食堂の運営にも取り組まれています。

<https://www.city.itoshima.lg.jp/s026/010/b070/itoshimasigoto/itoshimasigotokiji10/20231114130119.html>

いとしま応援プラザ 桑野陽子様

子育て支援を地域社会全体で支える活動が続ける中で築いた地域ネットワークを活用し、2009年に「NPO法人いとひとねっと」を立ち上げられました。そして、子育て支援や地域交流、移住者支援などに関わるさまざまな事業を実施されました。2011年からは、いとしま応援プラザの指定管理者として施設の運営に携わられました。現在はNPO法人を閉鎖し、スタッフとしていとしま応援プラザに勤務されています。芸術家や起業家の支援、訪問客への接客対応、「糸島クラフト」をはじめとした糸島市の魅力発信に尽力されています。

<https://www.itopla.biz/>

いとゆたか農園 寺田佳奈様

2人のお子さんを育てながら、ご主人とお二人で農業を営んでいらっしゃいます。東京で就職されていましたが、結婚・出産を機に地元である糸島市へ戻られました。仕事への復帰にあたり、地元で貢献したいとの思いから農業の道を選びました。JA糸島の農業研修制度を利用し、アスパラガスの研修生として1年間経験を積まれた後、2022年に新規就農されました。現在はアスパラガスのほか、きゅうり、にんにく、いちご、ブロッコリーなど、少しずつ栽培品目の幅を広げておられます。

<https://www.instagram.com/itoyutakanouen/>